

## 「環境芸術研究史」

研究年度・期間：平成5年度～平成7年度

### 平成5年度

**研究代表者：**稲田 尚之  
(芸術文化研究科 教授)  
北村 文雄  
(芸術文化研究科 教授)  
**研究ディレクター：**清水 正之  
(環境計画学科 教授)  
**共同研究者：**荒木 正典  
(環境計画学科 教授)  
田端 修  
(芸術文化研究科 教授)  
松久 喜樹  
(環境計画学科 助教授)  
吉原 卓男  
(環境計画学科 助教授)  
下休場千秋  
(環境計画学科 講師)  
柿沼 祐太  
(環境計画学科 助手)  
福原 成雄  
(環境計画学科 講師)

### 平成6年度

**研究代表者：**稲田 尚之  
(芸術文化研究科 教授)  
北村 文雄  
(芸術文化研究科 教授)  
**研究ディレクター：**清水 正之  
(環境計画学科 教授)  
**共同研究者：**荒木 正典  
(環境計画学科 教授)  
田端 修  
(芸術文化研究科 教授)  
松久 喜樹  
(環境計画学科 助教授)  
吉原 卓男  
(環境計画学科 助教授)  
下休場千秋  
(環境計画学科 講師)  
柿沼 祐太  
(環境計画学科 助手)  
福原 成雄  
(環境計画学科 講師)

### 平成7年度

**研究代表者：**北村 文雄  
(芸術文化研究科 教授)  
**研究ディレクター：**清水 正之  
(環境計画学科 教授)  
**共同研究者：**荒木 正典  
(環境計画学科 教授)  
稲田 尚之  
(芸術文化研究科 教授)  
田端 修  
(芸術文化研究科 教授)  
ハーヴィ A. シャピロ  
(環境計画学科 教授)  
松久 喜樹  
(環境計画学科 助教授)  
吉原 卓男  
(環境計画学科 助教授)  
若生 謙二  
(環境計画学科 助教授)  
下休場千秋  
(環境計画学科 講師)  
福原 成雄  
(環境計画学科 講師)  
柿沼 祐太  
(環境計画学科 助手)

### 研究経過の概要

環境芸術は、人間と環境との関わりについて、美や快適性などの観点から表現する活動、またはその成果といえよう。この分野は古くから存在してきたが、研究対象として十分なとりくみがなされてきたとはいえず、今後に発展が期待される分野である。そのため今回は、環境芸術に関する分野として、造園、建築、都市、地域を主にとりあげて、それぞれについて国内外の関連分野からの学術論文、文献、資料の収集を行い、データベースソフトを用いて、その整理・分類を行うこととした。

対象とした文献は、造園学雑誌(1925 - 1927)、造園研究(1931 - 1940)、造園雑誌(1934 - 1994)、日本造園学会春季・秋季大会研究発表要旨集(1977 - 1982)、日本造園学会研究発表論文集(1983 - 1994)、都市計画(1955 - 1995)、日本都市計画学会学術研究発表会論文集(1977 -

1994) 建築雑誌 (1924 - 1994) 日本建築学会論文報告集 (1958 - 1994) 土木学会誌 (1966 - 1991) 土木計画学研究論文集 (1969 - 1991) 農村計画 (1991) 風景 (1949) 都市公園 (1969) 都市公論 (1936 - 1937) 都市問題 (1954 - 1957) 都市問題研究 (1962 - 1970) ランドスケープ (1969 - 1971) 公園緑地 (1949 - 1970) 国立公園 (1937 - 1971) 日本庭園 (1956 - 1970) 新園芸 (1951) 緑化 (1949) ガーデン (1959) 建築史研究 (1964) 建築文化 (1969 - 1970) 建築と社会 (1960 - 1968) 新建築 (1965 - 1966) 国際建築 (1959 - 1965) 新都市 (1951 - 1968) SD (1966) ジュリスト (1966) スペース・デザイン (1964) 観光 (1942 - 1971) 観光研究 (1960 - 1961) 国際観光 (1940 - 1952) 国土 (1960 - 1970) 千葉大学園芸学術報告 (1964 - 1965) 道路 (1959) 地域開発 (1966 - 1971) 地理 (1964) 人文地理 (1955) 不動産研究 (1971) 宅地開発 (1969) 区画整理 (1960) などの学術雑誌及び専門雑誌とそれぞれの分野の関連文献である。

## 研究成果について

研究成果は次のようである。

環境芸術研究の流れを概観するために、平成5年度から7年度にかけて、学術論文、文献、資料の収集を行い、データベースソフトによりこれらの資料整理を行う体制を整えた。資料整理に関しては、文献を著書、研究論文、報告、総説、評論に類別し、それぞれについて図-1のように摘要、キーワード、トピックスを作成してそれらのデータベース化を行った。平成6年度からは国外の関連文献、資料の収集とそのデータベース化に着手し、平成7年度はこれらに重点をおいてデータベース化を行った。

以上をもって、環境芸術に関わる造園、建築、都市、地域に関する内外の関連分野からの学術論文、文献、資料の一応のデータベース化を完了した。成果はフロッピーディスクに収録され、今後の研究活動に供される。

## 研究の反省

研究対象の関連分野が広く、文献が多岐にわたるため、すべての文献に対する摘要の作成は充分になされたとはいいがたい。また、各部門でキーワードに対する認識の相違がみられたため、各部門におけるキーワード概念の統合化が必要とされよう。国外の文献については、367の文献のデータベース化を行ったが、これらのすべての文献を入手することは困難であったため、摘要の作成は限定されたものとなっている。研究論文、文献のデータベース化は継続して行う必要があるため、今後も上記の課題にとりくむとともに、継続してデータベースの充実を図り、院生、学生の利用にも役立てるものとした。

著者名		ふじしま いじろう 藤島 亥治郎		登録番号	建築0161
題名		平出集落址に於ける住宅の復原		フィールド	建築環境
第一報				発表形態	論文
刊行地		発行所		担当	清水
発行誌名		66巻	774号	記録者	I. N. S
建築雑誌		~	12頁	記録日	94.2.18
		発行年月	1951年	保管場所	
			5		

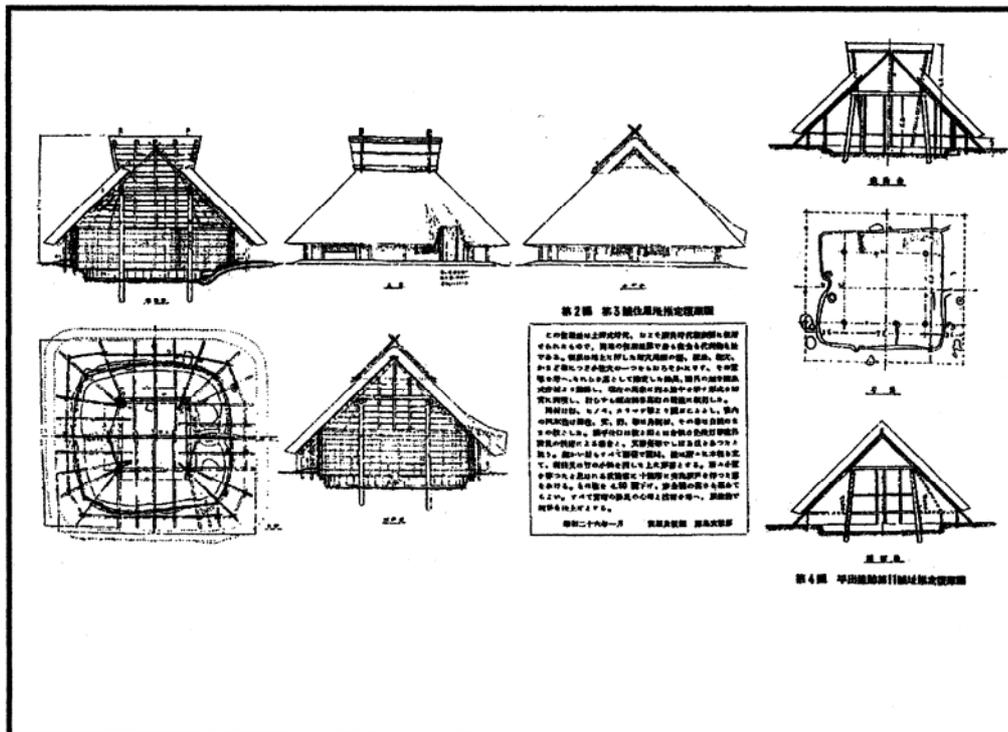
概要

平出の集落址は縄文式時代から土師式時代かけての遺跡であり土師式遺跡として最も注目すべきものとし、この村人は石器時代以来堅穴住居をしており、その大小から貧富の差があったとしている。縄文式住居址は三戸で5~6本以上の柱穴があることから、家造りの始めは三脚柱の構成にあるということから復元的考察をすすめている。土師式時代の住居址の復原として6㎡の正方形に近い堅穴の第3号址と直径11m余の正方形に近い第11号址について復原図を示し説明している。

キーワード

平出集落址   縄文式時代   土師式時   堅穴   復原

トピックス



著者名		かわい せいいち 河合 正一		登録番号	建築0181
題名		近代建築の理解のために —歴史+デザイン— 敘説		フィールド	建築環境
第一報				発表形態	論文
刊行地	発行所	発行年月	1954年	担当	清水
発表誌名	建築雑誌	69巻 809号 ~ 1頁	4	記録者	I. N. S
				記録日	94.2.10
				保管場所	

概要

建築作品を三角形に考え、底辺を社会的・経済的基盤、下部構造とし、頂点が具体的な建築物そして底辺と頂点を結ぶ空間を方法、材料などを示すものとして、下部構造を含めた三角形の形態により個人様式が峻別でき、地方様式、時代様式が成立するとしており、建築史の方法もデザインについてもこの展開により説明している。近代建築について如何なる基礎構造に於いても成立し得る客観的、理論的、組織的な構成方法を打ち立てようとしたが芸術性の頂は過去の典型様式の頂にまだ至っていないとし、その建築形態、日本のソシアル・リアリズムの問題に言及している。

キーワード

近代建築    下部構造    様式    歴史    デザイン

トピックス

